

J07と共通キャリアスキルフレームワークとの対応について

笥 捷彦（早稲田大学）

情報処理学会情報処理教育委員会委員長

1. J07 産業界パブコメに対する対応（予定）

- ・ J07 最終報告 (2008-03-13) <http://www.ipsj.or.jp/12kyoiku/taikai70sympo/index.html>
5 領域別知識体系・コア・カリキュラム例 ← 個別コメントへの対応
- ・ J07 CD-ROM (2008-07-31 予定)
← “5 領域の位置づけ” 解説
← “5 領域 (+GE) の相互比較”
- ・ GEカリキュラム例, 副専攻のカリキュラム標準 →2008 年度末公表
- ・ 各種スキル等の修得 →教育方法（卒論, PBL, 実践的実習など）の検討
- ・ “(日本発の) 統一カリキュラム” → J07 後継へ向けて検討に着手

2. J07 と共通キャリアスキルフレームワークとの対応

- ・ “5 領域の位置づけ”, “5 領域の相互比較” に対する作業として行ったもの。共通キャリアスキルフレームワーク (CSF) 用に定められつつある知識体系の枠組みに対して, 5 領域それぞれに, その知識体系の知識項目を対応配置した表。
- ・ 作業をして見ていくつかの発見があった。
 - 共通 CSF の知識体系の項目の粒度にばらつきが見られし, 知識項目として実践内容があげられているものもあり, J07 の知識体系との対応が自然でわかりやすいものとはなりにくい。
 - さらに, 知識項目 (あるいはスキル項目) の対応付けでは, 項目の粒度の差異ばかりでなく, レベル (達成度) や視点の差異もあり, 単純な比較は難しい。
 - この種の異なる枠組みの間での対応表は, 慎重に扱いたい。対応表が一人歩きして, 項目名だけの対応でもって「充足している」とか「準拠している」とかと安易に使われてしまう恐れがある。
 - それでも, この作業を行ってみて, 個別に不備な点や改善点が見つかるという効果はあった。